

L'AMOUR BRAQUE



狂気の愛の物語

ソフィー・マルソー主演 / アンジェイ・ズラウスキ監督作品

脚本 ■ エティエンヌ・ローダ・シル / アンジェイ・ズラウスキ 製作 ■ アントワーヌ・ガナージュ 音楽 ■ スタニスラス 撮影 ■ ジャン・フランソワ・ロバン 美術 ■ ドミニク・アンドレ 編集 ■ マリー・ソフィー・デュビュス 製作 ■ サラ・フィルムズ 出演 ■ フランシス・ユステール / チェッキー・カリョ / クリステアヌ・ジャン / セルジュ・スピーラ
1985年 / フランス / 1時間40分 / ビスタサイズ 提供 ■ フラン・コーポレーション 配給 ■ 株式会社ソシオソフト

狂気の愛



狂気の愛

L'AMOUR BRAQUE

1985年マドリッド映画祭主演女優賞受賞
1985年カンヌ国際映画祭出品作品

■解説

かつて映画が王様であった時代があった。その時代、映画は多くの人々の共感の真っ只中にある。なぜそんなにまで多くの人々の共感を集めたのか。それは映画が、他のいかなるメディアも凌駕して、時代の精神を分析し、現在を認識し未来を予知、予感していた。すなわち映画が時代の先端であり、メディアの中で映画が最も新しかったのである。

「狂気」の愛」。ズラウスキはこの映画で、次に来るべき時代の意匠を描いて、映画の復権を目ざしている。見た目には、なんとマイナスの、負のアクションに満ちた映画である事か。泣き、わめき、うめき、なぐり、走り、殺し、犯し、狂い、壊し、奪う。およそ今の時代において普通と考えられている人と人とのコミュニケーションは描かれてはいない。また個人の生き方、関係なりの方向が、どれ一つを取っても未来へ向って、建設しようとする姿勢は少しも無い。後ろ向きなのではなく、破壊、そうする事によって、いったん現在のあらゆる価値観、価値体系を否定し、新たな価値の創造は、その廃虚の

灰の中から立ち登るとも言いたげに、在る物は壊し、生きている者は全員が死んでゆく。ズラウスキはこの映画で、すでに在るものの全否定、全破壊を主張している。それはポーランドからフランスへと、相対立する二つの国家、二つの価値体系を流れた、流浪の作家の当然の帰結であろうし、越境する作家は、未来(次の国)を夢見ている。それは映画にとっては一つの世相に対する提案であり、「狂気」の愛は、映画が黄金であった時代の、映画と世相との在るべき関係を目ざし、ふたたび映画の先見性を提案している。

「ボゼション」(1981年)ではイザベル・アジャーン。「私生活のない女」(84年)ではヴァレリー・カプリスキー。そして「狂気」の愛(85年)ではソフィー・マルソーと、絶えずその時代の最も先端的な女優を使い続けて、ズラウスキ的文法(現在へのアンチテーゼ、動き回るカメラ、主役の演技よりアクション優先)の中で使い切る監督の出現は、ふたたび作家の時代の到来を確信する。尚原作はドストエフスキー「白痴」であり、マルソーはこの作品によって、大胆な脱皮と高く評価された。



■ストーリー

1986年、パリ。二人の男が列車に乗っている。ハンガリーからやってきた一文無しのプリンス、レオンと強盗をはたらいてきた若い与太者、ミッキイである。二人は互いに親しみを感じた。

ミッキイの目的は2つある。ひとつは、7年間の刑期を終えて刑務所を出てくる彼の父親に出所祝いを用意すること。もうひとつは、愛する女マリーを自分の手に入れることである。だが、このことでミッキイは、ヴァン兄弟との暴力抗争に直面することになる。彼らがミッキイの父が刑務所に入る原因となったのであり、また、彼らはマリーの主人だったのだ。

ヴァン兄弟のアパルトマンで、出会ったレオンとマリー。見つめあう二人。互いの瞳から目をそらすことができなかった。ミッキイは立ち去るときに、アパルトマンに手榴弾を投げ入れる。燃え上がるアパルトマンを後に、マリーを奪って逃げるミッキイ。ヴァンの手下たちが現れ、銃撃戦が始まった。ミッキイ、レオン、マリーの三人は無事に逃げ去ったが、ミッキイの父親は逃走中の車の中で死んだ。薄汚いホテルにおちのびたレオンとマリーは二人きりになり、愛を確かめあう。

パリの通りはヴァンの帝国のようなものだ。その通



■キャスト

マリー ■ ソフィー・マルソー
レオン ■ フランシス・ユステール
ミッキイ ■ チェッキー・カリョ
アグレエ ■ クリステア・ヌ・ジャン
男爵 ■ セルジュ・スピエラ
警視 ■ ローラン・デュビヤール
ギャングのボス ■ サイド・アマティス
シモン・ヴァン ■ ジャン・マルク・ポリ
ジルベール・ヴァン ■ ジェド・マルロン
ジゼル ■ ジュリー・ラヴィックス

り、アラブ人の助っ人を得てミッキイはジルベール・ヴァンを銃撃する。追跡の末、ジルベールは、クロードと同じようにマリーの目の前で死んだ。これで、二人目だ。三人目は、エドガー。ジルベールから死の直前に居所を聞いたミッキイとレオンは、エドガーをとらえた。

そして残ったのは、ヴァン兄弟の頂点に君臨する、銀行家で芸術のパトロン、シモン・ヴァンだ。ただ、彼にも弱点があった。レオンのいとこ、アグレエである。エドガーを殺したミッキイと彼の手下は劇場に向かった。そこで最後の餌食がいるというのだ。アグレエだけが、ミッキイとマリーの闘いに決着をつけることができる。そこで、彼女はマリーと取引をした。シモンとレオンを交換するという取引を。彼女は与太者たちに、シモンを駐車場に殺させる。

こうしてヴァン兄弟は全滅した。ミッキイとマリーの闘いは終わったのだ。ミッキイはマリーを連れていき、アグレエはレオンをあずかった。だが、ミッキイはマリーが自分を愛していないことを知り、彼女を殺す。

11月28日(土)のお正月同時ロードショー!

シネセゾン 渋谷

銀座テアトル西友

渋谷道玄坂ザ・プライム6階 ☎03(770)1721 自由席定員制・入替制

銀座1丁目(旧テアトル東京跡) ☎03(535)6000

連日 12:00 2:20 4:40 7:00 ④⑤のみ夜9:20

連日 12:30 2:40 4:50 7:00 ④⑤のみ夜9:10

(お正月営業については各劇場へお問い合わせ下さい。)

特別鑑賞券1,200円発売中
(当日一般1,500円・学生1,300円)

特別鑑賞券は都内各プレイガイド、チケット・セン
ン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求め下さ
い。グループ鑑賞のお申し込みは、(株)メイジャー
☎03(541)2508まで。

※「シネセゾン渋谷」用の特別鑑賞券は「銀座
テアトル西友」の両館でご利用できます。